



## 一般社団法人日本マススクリーニング学会 2022年度定時社員総会（評議員会）議事録

日 時：2022年8月26日（金）12：50～13：40

場 所：大阪市中央公会堂 小集会室・Zoom

議 長：大浦敏博 理事長

出席者：現地参加 26名、オンライン参加 21名 計47名

議題：

### 1. 開会の辞（大浦 理事長）

- ・出席者が定数を満たしたため、社員総会を開会した。

### 2. 学術集會会長挨拶（濱崎第49回学術集會会長）

- ・第49回学術集會会長の濱崎理事より挨拶があった。

### 3. 報告事項

#### 1) 会員現状報告・委員会組織（大浦 理事長）

- ・会員数は若干だが増加しており、特にA系会員が増加している。

#### 2) 委員会報告（大浦 理事長）

- ・理事長より各委員会に関して下記の報告がなされた。

##### ①編集委員会

- ・学会誌は順調に発刊されている。学会誌への広告掲載について、是非ご協力をお願いしたい。
- ・学会誌投稿規程を改訂した。

##### ②精度保証システム委員会

- ・精度管理業務を実施している。技術部会の協力を得て、外部精度管理・内部精度管理とも円滑に進めている。

##### ③教育研修委員会

- ・研修会をWebで開催し、多くの参加が得られた。次年度はオンデマンド形式での開催を予定している。

##### ④倫理・COI委員会

- ・「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が一部改正された。
- ・日本産科婦人科学会「着床前診断に関する見解」が改訂された。

##### ⑤保険・薬事委員会

- ・令和4年度診療報酬改正があり、遺伝子診断が新規に認められた。

#### 3) 技術部会報告（石毛 理事）

- ・会議関連、功労者表彰、技術部会研修会開催に関して報告がなされた。
- ・第41回技術部会研修会は2023年3月11日にオンラインで開催予定。
- ・郵便法改定後のアンケート調査を実施した。検体の到着が1日遅くなっていることが判明した。詳細について継続して調査をし、報告する。
- ・理事長より、回答率を高めて結果を再度集計し、継続して検討していきたいとの提案がなされた。
- ・NBS対象疾患拡大に向けた体制整備に関するワーキンググループ（WG）についてメンバーを選定して精度管理体制構築のための検討を進める予定。

#### 4) 認定技術者制度認定部会報告（田崎 理事）

##### ①2022年度認定技術者審査結果について報告がなされた。

- ・新規申請者は12名、更新申請者は6名となり、認定部会で審査した結果全員承認となった。

- ・現時点での認定技術者数は72名となった。
  - ・認定技術者不在の検査機関：現在6施設で、検査施設ごとの取得率は80%となった。
- 5) 功労者表彰・永年勤続者表彰報告（大浦 理事長）
- ・功労者表彰は下記2名が決定した。
    - 九曜雅子氏（富山県衛生研究所）、安片恭子氏（ちば県民保健予防財団）
  - ・永年勤続者表彰は2名が決定した。
    - 坂口知子氏（大阪公立大学大学院医学研究科）、長谷川智美氏（東京都予防医学協会）
- 6) 2023年度予算（案）（田島 理事）
- ・2023年4月1日～2024年3月31日の予算について報告がなされた。
  - ・2022年度と大きな変更点はないが、項目ごとに微調整を行い、予算案を作成した。
- 7) 学会細則について（大浦 理事長）
- ・任意団体時の細則を法人用に改訂した旨報告がなされた。
- 8) 選挙スケジュールならびに選挙委員について（大浦 理事長）
- ・2023年1月から評議員選挙を実施する。選挙委員会を設置し、選挙の方法（郵送またはWebなど）を検討する予定。
- 9) 第50回学術集会準備進捗状況（長崎 次期学術集會長）
- ・第50回学術集會長の長崎会長からご報告がなされた。
  - ・2023年8月25日～26日に新潟グランドホテルにて開催予定。
- 10) 第51回（2024年）学術集會會長について（大浦 理事長）
- ・2024年度に開催する第51回学術集會會長は、中村公俊理事に決定した。
  - ・2024年8月23日～24日、熊本城ホールにて開催予定。
- ①日本医療機能評価機構【Minds】掲載について（田島 理事）
- ・下記2点について【Minds】に掲載された。
    - ・先天性甲状腺機能低下症マスキングガイドライン（2021年改訂版）
    - ・21-水酸化酵素欠損症の診断・治療のガイドライン（2021年改訂版）
- ②First Impact Factor for IJNS in June 2023（田島 理事）
- ・投稿論文が5編集まると優秀論文の審査が可能となる。次年度以降はImpact Factorが付くことになったので、是非投稿をお願いしたい。
4. 協議事項
- 1) 財務関連
- ①任意団体：2021年度決算報告案（田島 理事）
- ・2021年1月から法人に移行した9月までの決算について報告がなされた。
  - ・任意団体の残余金は一般社団法人に寄付として移行された。
- ②一般社団法人：2021年度決算報告案（田島 理事）
- ・一般社団法人設立の9月から2022年3月末までの決算について報告がなされた。任意団体からの残余金を繰り越し金として計上した。残余金には任意団体時の特別会計も含まれている。
- ③監査報告書（福士 監事）
- ・6月20日にWebにて松原監事と監査を実施し、正当に執行されている旨報告がなされた。
  - ・上記について過半数の承認を得たため社員総会にて承認となった。
- 2) 2023年度事業計画（大浦 理事長）
- ・2023年度の事業計画案が報告され、過半数の承認を得たため社員総会にて承認となった。
- 3) 定款一部改定について（大浦 理事長）
- ・本会細則を設定した際、現行の定款の記載内容が実際の業務内容と合っていない部分が判明し

た。そのため、下記の条文を改定したい旨提案がなされ、3分の2以上の承認を得たため社員総会にて承認となった。

改定後の条文：

第4章 評議員（社員）

第12条

本会の評議員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という）上の社員とする。

- 2 評議員として選出評議員と推薦評議員を選任する。
- 3 選出評議員は、別に定める細則に従い、正会員の中から、4年毎に開催される正会員による評議員選挙にて選任する。
- 4 推薦評議員は、別に定める細則に従い、理事長が正会員の中から推薦し、理事会承認を得て選任する。
- 5 評議員の定数は正会員の14%以内とする。

4) 精度管理業務の引き継ぎについて（大浦 理事長）

- ・今までも精度管理事業は学会の重要な業務として実施してきた。以前は日本公衆衛生協会が窓口となっていたが、その後NPO法人タンデムマス・スクリーニング普及協会（TMS協会）に移行され現状に至る。本会が法人化されたことを受け、今後は学会が窓口となって業務を実施してほしい旨TMS協会の山口理事長より提案を受け、移行について理事会にて審議し承認された。
- ・主な業務内容は、外部精度管理・内部精度管理支援・コンサルテーションである。
- ・自治体より年間約5,200万円の収入があり、その中でTMS協会が業務を進めていたが、この窓口業務を学会が受けることになる。
- ・本件について過半数の承認を得たため社員総会にて承認となった。

5. 閉会の辞（大浦 理事長）

- ・理事長より閉会の挨拶があり、定時社員総会は終了した。

以上

2022年8月26日

一般社団法人 日本マススクリーニング学会

理事長： 大浦 敏博



副理事長： 但馬 剛



副理事長： 田島 敏広



理事： 石毛 信之



理事： 伊藤 哲哉



理事： 大竹 明



理事： 重松 陽介



理事： 中村公俊



理事： 濱崎 考史



理事： 山口 清次



理事： 窪田 満



理事： 九曜 雅子



理事： 酒井 好美



理事： 田崎 隆二



理事： 花井 潤師



理事： 平原 史樹



理事： 南谷 幹史

